法然上人 御忌 御和讚



ポイント注意 明るく唱えます

●「濁世を救う」はやさしく小さい声から、「専修の門は」で大きく盛り上げます。

** 御 忌 和 讃

高津 ときを 作詞

- 2 み教えあまねく 広まりて心に染み入る お念仏流れあふれて 苦水の歴史は清し 八百年
- 3 代々の管も 御談ありりまる 対策 くだされて対策と決る 御忌の庭総仏の声 いや高し
- 4 華頂の嶺は 松青く 久遠の教え 日々若し 聖 法然 たたえつつ 拝む命の やすけさよ

開 宗 和 讃

成田 教淳 作詞

- 1 承安五年の春弥生 礼師は御齢四十三 弥陀の教いの手をのべて 開き給いし浄土門 摂取不捨の み光を 仰ぎて八百五十年 この喜びをことほぎを 思いあらたに報謝せん 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
- 2 愚痴のわが身を煩悩を 夢め結えと苦がの 流れにみ名を称うれば 尊き教え ありがたき 光明倫照 戸影の ながむる人にすみわたる この喜びを 宿縁を 憩いあらたに報謝せん 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
- 3 祖師のお遺訓 たのもしや 当けらば気仏のうつもり 死なば浄土にまいりなん とてもかくてもこの身には 思いわずろうことぞなき この身このまま敷わるる このっきびを慰徳を 思いあらたに報謝せん 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

(音譜は6ページ)